



公益社団法人

日本語教育学会

2020年度日本語教育学会秋季大会

2020年11月28日（土）・11月29日（日）

オンライン開催

今年度の春季大会は予稿集発行をもつての発表が成立し、また秋季大会はオンラインでの開催となりました。例年のように、久しぶりに顔を合わせた会員同士の賑やかな会話があふれ、一般参加の方も交えた教育・研究についての熱のこもったやりとりが会場のあちこちで聞かれる様子、多くの書籍が並び、日本語教育の動向を肌で感じることができる場に集うことができないことを、とても寂しく感じます。

しかし、そうした状況に諦めることなく、Zoom等様々なツールを使用して、音声・映像付きで遠隔での授業や会議等を可能にする手段を使って、国内・海外問わず、遠隔地の相手とのやりとりができる環境を利用した様々な試みが大きく広がりました。旅費や移動時間の負担を心配せずに打ち合わせや相談、研究発表などができることは、大きな利点です。学会としても、これまでの環境が変わることの不便や不安ばかりでなく、それらのプラス面を活かした形でさらなる発展に繋げていきたいと考えております。

秋季大会においては、オンデマンド・ビデオ配信によって事前に発表等を視聴し、質問を投稿できる形を準備いたしました。また同期型の会議システムを利用して意見交換、情報交換ができる環境も作りました。一人でも多くの方に秋季大会にご参加いただき、新しい形ならではのプラス面も感じていただければと思います。

会員をはじめとする日本語教育の関係者の方にも、新型コロナウイルスに罹患し、苦しく、不安な思いをしていらっしゃる方がおありかもしれません。一刻も早くこの事態が収まり、皆様が不安なく活躍できる日が戻りますよう、心より願います。

公益社団法人日本語教育学会会長 石井恵理子

目 次

開催のご挨拶	1
開催概要／目次	2
大会日程	3
一般公開プログラム	4
発表一覧：パネルセッション	5
発表一覧：口頭発表	6
発表一覧：ポスター発表	10
同時開催イベント	14

◆今大会の実施方法について◆

2020 年度日本語教育学会秋季大会は、全面的にオンライン開催となります。

・学会発表については、以下の 3 つの方式の組み合わせにて行います。

①事前のオンデマンドによるビデオ配信・資料閲覧：2020 年 11 月 21 日（土）～ 11 月 29 日（日）
（パネルセッション：60 分、口頭発表：20 分、ポスター発表：10 分）

②事前の指定フォームによる質問：期間については同上

③大会当日の Zoom による同時双方向型の質疑応答：2020 年 11 月 28 日（土）・29 日（日）
（パネルセッション：30 分、口頭発表：20 分、ポスター発表：25 分）

※当日は質疑応答のみで、ビデオ再生の時間は設けておりません。

・その他のプログラムの実施方法については、本プログラムおよび学会ウェブサイト「春季大会・秋季大会」のページ（<http://www.nkg.or.jp/jissensha/taikai>）にて、今後公開される告知等をご確認ください。

・オンライン開催では、事前参加登録のみといたします（当日受付は行いません）。

◆主催：公益社団法人日本語教育学会

◆大会参加費：【事前登録 ※お支払い時に手数料がかかります】

会員 3,500 円

会員（学生証をお持ちの方）2,000 円

会員でない方 5,000 円

【当日受付】オンライン開催では行いません。

※無料プログラムのみへの参加方法（要事前申込）については、学会ウェブサイトをご参照ください（10 月中旬に公開予定）。

◆事前登録期間：2020 年 10 月 16 日（金）～ 11 月 15 日（日）

◆問合せ先：E-mail: taikai-office@nkg.or.jp（下記を除く大会に関する問合せ先）
online-office@nkg.or.jp

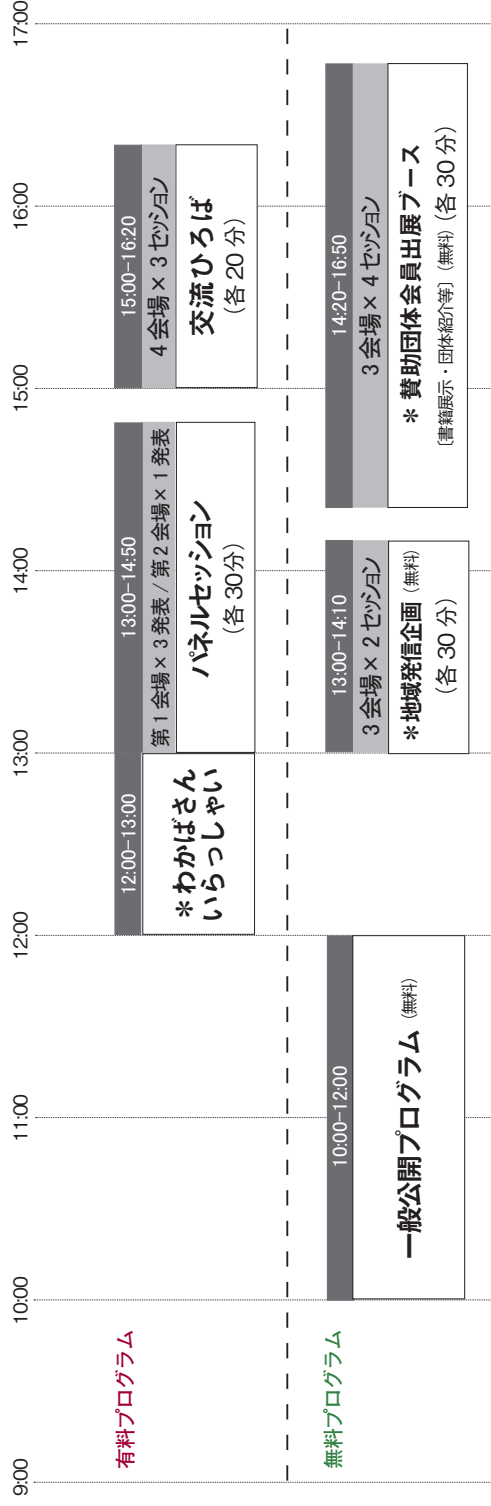
（オンライン参加に関する技術面の問合せ先）

TEL: 03-3262-4291（当日のみ）

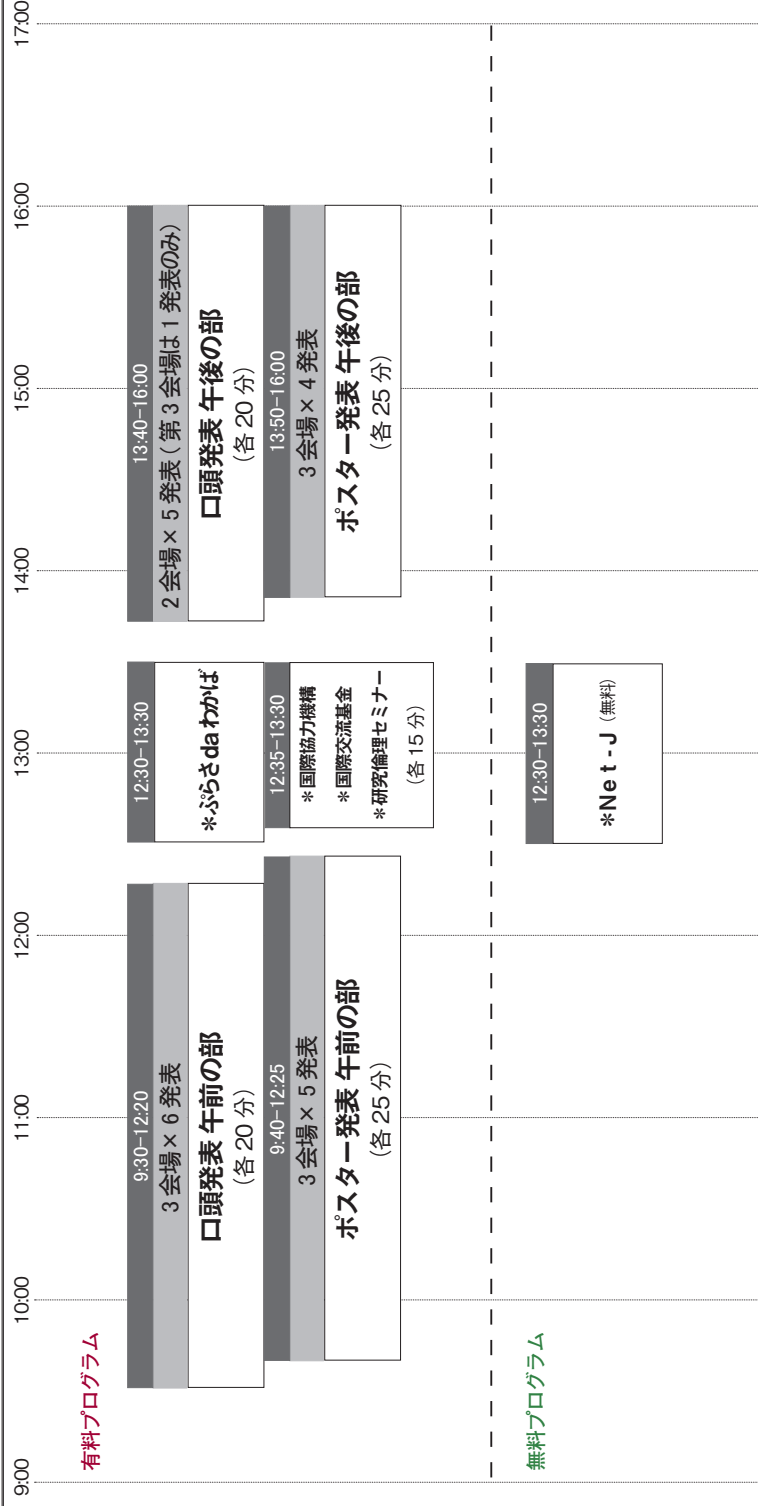
◆大会日程◆

* 印のイベントの概要は、14 ～ 23 ページをご覧ください。

11 月 28 日 (土)



11 月 29 日 (日)



* 無料でご参加いただけます。

シンポジウム

受け入れ社会側へ働きかけるツールとしての 「やさしい日本語」研修

11月28日（土）10:00～12:00

主催：公益社団法人日本語教育学会 社会啓発委員会

『外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策（改訂）』（2019）には、「やさしい日本語」の活用が明記されるようになりました。受け入れ社会側に向けての教育を考える際、そのきっかけとなりうる概念が「やさしい日本語」だと言えます。ただし、「やさしい日本語」の研修ノウハウは、まだ広く共有されていません。こういった現状に対応すべく、本シンポジウムでは、各分野（役所、学校、医療分野）において「やさしい日本語」の研修に深く関わっている実践家の方々に集まっていただき、そのノウハウを公開します。

* 実施方法は、学会発表と同様ですが（2ページ参照）、当日、プログラム内での動画の再生も予定しています。

パネリスト：

「自治体の職員対象に行っている「やさしい日本語」の研修内容」
松本義弘氏（横須賀市産業振興財団常務理事・事務局長）

「学校の教職員対象に行っている「やさしい日本語」の研修内容」
石原嘉人氏（港区立六本木中学校校長）

「医療現場の職員対象に行っている「やさしい日本語」の研修内容」
武田裕子氏（順天堂大学大学院医学研究科医学教育学教授）

コメンテーター：

ハッカライネン・ニーナ氏（外国人女性の会パルヨン代表理事）

進行・趣旨説明：

岩田一成（聖心女子大学）

本プログラムは、JSPS 科研費 JP20HP0002 の助成を受けたものです。

※無料での参加が可能な同時開催イベントへの事前参加登録をお願いいたします（詳細は後日学会ウェブサイトで公開予定）。

パネルセッション—質疑応答—

第1部 [13:00 ~ 13:30 (30分)]

第1会場

①

共生社会のための日本語教育

稲垣みどり (山梨学院大学)

金泰明 (大阪経済法科大学)

細川英雄 (言語文化教育研究所)

杉本篤史 (東京国際大学)

第2会場

②

当該発表は、発表者の都合により辞退となりました。

第2部 [13:40 ~ 14:10 (30分)]

第1会場

③

同僚性を生むもの、同僚性が生むもの—日本語教師の自発的な学習のための、三つの集まりから考える—

有田佳代子 (新潟大学)

村上吉文 (国際交流基金)

中村妙子 (フリーランス)

牛窪隆太 (東洋大学)

第2会場

④

SDGs × 日本語教育—持続可能な社会の実現に向けた日本語教育の役割とは—

毛利貴美 (岡山大学)

古川智樹 (関西大学)

寅丸真澄 (早稲田大学)

中井好男 (同志社大学)

第3部 [14:20 ~ 14:50 (30分)]

第1会場

⑤

デジタルリソースのキュレーションを考える—事例と視点の共有を目指して—

山田智久 (北海道大学)

北村祐人 (文化庁)

伊藤秀明 (筑波大学)

熊野七絵 (国際交流基金)

口頭発表—質疑応答—

午前の部〔9:30～12:20（各20分）〕

第1会場

司会：

【①～③】ボイクマン総子（東京大学）

【④～⑥】木下直子（早稲田大学）

9:30～9:50

①

文脈の中の個人の視点からみた遠隔言語学習の
動機づけ—あるオンラインの日本語学習者のケース
スタディー—

陳静怡（大阪大学大学院生）

10:00～10:20

②

透明度要因とL2習熟度要因が慣用句の意味推
測に与える影響—身体部位詞を含む慣用句を例とし
て—

王雪瑶（お茶の水女子大学大学院生）

10:30～10:50

③

意見述ベタスクと物語タスクが中国人日本語学
習者の独話に与える影響—流暢さ、複雑さ、正確さ、
語彙の豊富さを用いた分析—

金銀姫（神田外語大学大学院生）

11:00～11:20

④

モンゴル語を母語とする日本語学習者における長
音の知覚について

劉永亮（東京都立大学）

11:30～11:50

⑤

連体修飾節における日本語と韓国語のアスペク
ト形式の対応関係

李在鉉（広島大学）

12:00～12:20

⑥

中学校地理の教科書における述語形式と記述の
内容—内容理解の支援のために—

宮部真由美（国立国語研究所）

第2会場

司会：
【⑦～⑨】服部明子（三重大学）
【⑩～⑫】伊藤秀明（筑波大学）

9:30 ~ 9:50

⑦
コーパス分析システムの公開と日本語教育・日本語研究への活用

山本裕子（愛知淑徳大学），本間妙（同）
川村よし子（東京国際大学），小森早江子（中部大学）

10:00 ~ 10:20

⑧
ライティング指導不安尺度開発の試み

布施悠子（国立国語研究所）

10:30 ~ 10:50

⑨
中国における大学日本語教師の成長ニーズ研究

成利楽（広島大学大学院生）

11:00 ~ 11:20

⑩
日本語教師の「熟達過程」について考える—教室活動における「問題解決能力」という視点から—

足立祐子（新潟大学），松岡洋子（岩手大学）
林さと子（元・津田塾大学），富谷玲子（神奈川大学）
宇佐美洋（東京大学），安場淳（中国帰国者支援・交流センター）
今村和宏（一橋大学）

11:30 ~ 11:50

⑪
上級日本語学習者による随筆テキストの読み—L2再生プロトコルの分析から—

山方純子（神田外語大学）
李榮（同）

12:00 ~ 12:20

⑫
JFT-Basic 受験者は CBT 形式での受験をどう捉えたか

八嶋康裕（国際交流基金），熊野七絵（同）
千葉朋美（同），廣利正代（同）

第3会場

司会：
【⑬～⑮】西谷まり（一橋大学）
【⑯～⑰】嶋田和子（アクラス日本語教育研究所）

⑬
システムズアプローチのコミュニケーション分析への応用可能性—日本人大学生集団を事例とした検討—

荒井美咲（東北大学大学院生）

⑭
多読読み物に対する日本語学習者の評価—日本語レベルの低い読み物はつまらないのか—

吉川達（佐賀大学）

⑮
「地域学習」の視点を取り入れた国際共修の授業デザイン—活動理論に基づく一考察—

藤美帆（広島修道大学）

⑯
日本語教育人材としての日本語学習支援者の役割に関する一考察—地域日本語教室ボランティアへのインタビューを基に—

本廣田鶴子（大阪大学研究生）

⑰
友人関係を築くための会話教育の提案—関係深化にフォーカスした授業実践から—

田中真衣（大阪大学），吉兼奈津子（神戸学院大学）
今田恵美（立命館大学），高井美穂（大阪大学）

⑰
遠隔交流による学習者のコミュニケーション能力の変化—コミュニケーション・ストラテジーの考察から—

徐曉娟（東亜大学学生）

口頭発表—質疑応答—

午後部 [13:40 ~ 16:00 (各 20 分)]

第 1 会場

司会：

【①⑨～②①】水野晴美（国際日本語普及協会）

【②②・②③】浜田麻里（京都教育大学）

13:40 ~ 14:00

①⑨

対人的ムードと対事的ムードの noda と gos-ita の意味の分布の幅

楊熙東（明海大学大学院生）

14:10 ~ 14:30

②⑩

地域における日本語教育人材の整理—日本語教育以外の専門性を持つ日本語教育人材の検討—

千葉月香（東海日本語ネットワーク）

米勢治子（同）

14:40 ~ 15:00

②⑪

戦前の台湾の日本語教授法の変遷—大正期の転換と 50 年間の継続性に注目して—

赤木奈央（慶應義塾大学）

15:10 ~ 15:30

②②

戦時下の日本語普及におけるタイと台湾の関係—『台湾日日新報』を中心に—

山口雅代（東京福祉大学）

15:40 ~ 16:00

②③

漢字圏 JSL 児童への漢字学習スキャフォールドニングに関する一提案—北京・台北調査をもとに—

柳瀬千恵美（九州大学）

第2会場

第3会場

司会：

【②4～②6】西口光一（大阪大学）

【②7・②8】牛窪隆太（東洋大学）

司会：

【②9】齋藤伸子（桜美林大学）

②4

日本人大学生が書いたナラティブ作文の評価—日本語ナラティブ作文用の評価項目を用いて—

坪根由香里（大阪観光大学）、数野恵理（立教大学）
トンプソン美恵子（山梨学院大学）
影山陽子（昭和音楽大学）

②5

図解作成を取り入れた読解過程に見られる読解ストラテジー—3名の中級日本語学習者の完成図解と要約文の比較から—

エルサイド祐子（日本大学）

②6

接触場面における漢字を用いた修復連鎖のマルチモーダル分析—日本語母語話者医師と中国語母語話者模擬患者の模擬医療面接から—

加藤林太郎（国際医療福祉大学）

②7

日本語教育における社会的転回の再考—言語・文化的マイノリティによる対話をもとに—

中井好男（同志社大学）
丸田健太郎（広島大学大学院生）

②8

留学生は学術的文章の引用箇所をどのように判断しているか

向井留実子（東京大学）、中村かおり（拓殖大学）
近藤裕子（山梨学院大学）

②9

反転授業におけるグループワーク再考—話し合いの中の個人的活動と共同的活動—

手塚まゆ子（関西学院大学大学院生）

ポスター発表—質疑応答—

午前の部 [9:40 ~ 12:25 (各 25 分)]

第 1 会場

9:40 ~ 10:05

①

学習者と教師による対話的授業評価—学習者参加型実践研究をめざして—

広瀬和佳子 (神田外語大学)

10:15 ~ 10:40

②

ポストコロナ時代の学習者オートノミー育成—セルフアクセスセンターの再考—

瀬井陽子 (大阪大学)

10:50 ~ 11:15

③

適切な語の使用のために指導すべき点とは—タイ人日本語学習者の作文の誤用分析から—

三好裕子 (チュラロンコン大学)

11:25 ~ 11:50

④

大学生は「やさしい日本語」講義をどう受けとめたか—受講後の自由回答アンケート結果の分析から—

長谷川頼子 (敬愛大学)
井上里鶴 (つくばにほんごサポート)

12:00 ~ 12:25

⑤

実践報告「やさしい日本語プロジェクト」—社会参加を目指した授業で見えてきたこと—

荻谷太佳子 (愛知県立大学)

第2会場

⑥
9:40 ~ 10:05 中国語を母語とする日本語学習者の聴覚呈示における文記憶の分散効果—中国国内の中級日本語学習者を対象として—

常笑 (広島大学大学院生)

⑦
10:15 ~ 10:40 読解におけるメタ認知の活用に関する事例研究—学生 A の面接調査から—

藤田裕子 (桜美林大学), 福島智子 (同)
白頭宏美 (同), 伊古田絵里 (同)

⑧
10:50 ~ 11:15 留学生のピア・レスポンス談話における配慮表現の使用とその変化

烏日哲 (国立国語研究所)
井伊菜穂子 (一橋大学大学院生)

⑨
11:25 ~ 11:50 日本語オノマトペの基本語彙選定と分類—語彙教材の頻度分析の場合—

福留奈美 (東京聖栄大学)

⑩
12:00 ~ 12:25 マルチデバイスで学べる Web 版日本語学習システムの開発—Dig 学習システムを活用して—

楊達 (早稲田大学)
沈佳琦 (大海語言学院)

第3会場

⑪
元留学生外国人社員の就業継続の要因—SCAT 法による分析から—

高橋桂子 (武蔵野大学)
堀井恵子 (元・武蔵野大学)

⑫
支援者への支援を目的とした、介護の専門日本語学習支援情報サイト

中川健司 (横浜国立大学), 角南北斗 (フリーランス)
齊藤真美 (フリーランス), 布尾勝一郎 (佐賀大学)
橋本洋輔 (国際教養大学)

⑬
言葉の壁を乗り越えて繋がる多様性と自己確立の可能性—多言語・多文化化する小学校における「子どもパネルディスカッション」の追跡調査—

橋本ゆかり (横浜国立大学)
窪津宏美 (東京学芸大学大学院連合学校 (横浜国立大学配置) 大学院生)

⑭
年少者日本語教育は何を研究課題としてきたか?—過去 40 年間の RQ からその先を見通す—

本間祥子 (日本大学)
南浦涼介 (東京学芸大学)

⑮
日本語教師の「実践者」としての成長過程—「固有の実践」を志すに至ったある日本語教師に対するインタビュー結果より—

犬飼康弘 (ひろしま国際センター)

ポスター発表—質疑応答—

午後の部 [13:50 ~ 16:00 (各 25 分)]

第 1 会場

13:50 ~ 14:15

⑩

多様な人とまちのこばを体験しつくる過程—食品ロス削減への取り組みを通して—

佐野香織 (長崎国際大学)

14:25 ~ 14:50

⑪

日本の職場における中国人元留学生社員の異文化間コンフリクトとその解決方略

安部陽子 (九州大学大学院生)

15:00 ~ 15:25

⑫

外国人材受け入れ主体である地域住民の当事者意識を育てる試み—「ちっぷ 100 人サミット」を通して—

式部絢子 (北海道大学),
込宮麻紀子 (早稲田大学大学院生)
舘岡洋子 (早稲田大学)

15:35 ~ 16:00

⑬

外国人留学生の就職決定への過程—TEA を用いたライフストーリーの分析から—

前田真弥 (神戸東洋日本語学院)

第2会場

⑳

初級から学べる段階別学習型作文支援システムの構築—データ収集システムの開発—

金蘭美 (横浜国立大学)
川村よし子 (東京国際大学)
金庭久美子 (立教大学)

㉑

コロナ禍による授業のオンライン化に対する日本語教師の取り組み—オンライン授業の実践に関する教師へのアンケートから—

藤本かおる (武蔵野大学)

㉒

eラーニングの受講場面から見られる受講者のマルチモーダルな行為に関する研究

柳東汶 (早稲田大学大学院生)

㉓

e-learning 教材 “BUNGO-bun GO!” を利用した文語文教育

佐藤勢紀子 (東北大学)
虫明美喜 (宮城教育大学)
角南北斗 (フリーランス)

第3会場

㉔

タイの日系企業で働く元交換留学生の留学評価—留学期間による比較—

八若壽美子 (茨城大学)

㉕

日本語 (教師) 教育者の「行為の中の省察」—オートエスノグラフィーによるつぶやきの分析—

嶋津百代 (関西大学)

㉖

日本語教師の発話に見られる副詞「ちょっと」の考察

藤田裕一郎 (朝日大学)
立部文崇 (徳山大学)

㉗

模擬授業の準備はどのように進められるか—話し合いの縦断的分析からみたグループワークの展開構造—

張曦冉 (一橋大学大学院生)

わかばさんいらっしやい

[11月28日(土) 12:00 ~ 13:00]

主催：公益社団法人日本語教育学会 チャレンジ支援委員会

「わかばさん」とは、日本語教育を学ぶ学生・大学院生、日本語教育活動に関わり始めたばかりの方、教育経験は長くても研究活動を始めたばかりの方など、日本語教育学会ビギナーの方たちのことです。

わかばさんが大会に参加するときは、「どんな人が参加してるんだろう?」「どの発表を聞けばいいんだろう?」など、少し不安だったり、ちょっと勇気が必要だったり…。学会のセンパイたちもみんな同じ経験をしてきました。「わかばさんいらっしやい」では、事前に配信する動画で、大会のしくみや聞く発表の選び方、その他大会の楽しみ方をご説明します。大会当日は動画の内容について質疑応答を行なった後、「わかばさん交流会」を開催し、わかばさんどうしでお話できる場も用意しています。新しい出会いがあると大会はきっともっと楽しくなり、また大会終了後もネットワークはどんどん広がっていくでしょう。大会参加申し込みが済んでいる方が対象となります。参加希望の方は申し込みフォームでお申し込みください。たくさんわかばさんのご参加をお待ちしています。

地域発信企画

* 無料でご参加いただけます。

「地域の外国人に寄り添う「やさしい」日本語学習支援」

[11月28日(土) 13:00 ~ 14:10]

主催：公益社団法人日本語教育学会 支部活動委員会

地域発信企画は、日本語教育学会秋季大会の開催地を対象地域としながら、その地域の日本語教育の様々な取り組みや成果を全国に発信することを目的に開催されます。本年度は、コロナウィルス感染症拡大に伴って秋季大会がオンラインで開催されることから、対象地域を関西エリアに拡大して企画しました。参加者それぞれが新たな発見や刺激を得たり、相互に意見や情報を交換したりすることを通して新しいつながりが生まれることを期待しています。ぜひご参加いただき、多様性あふれる関西コミュニティの様々な日本語教育の取り組みに触れ、ネットワークを広げてください。

* 無料での参加が可能な同時開催イベントへの事前参加登録をお願いいたします（詳細は後日学会ウェブサイトで公開予定）。

* 出展の詳細は、19ページをご覧ください。

賛助団体会員出展ブース * 無料でご参加いただけます。

〔11月28日(土) 14:20 ~ 16:50〕

出展：公益社団法人日本語教育学会 賛助団体会員

本会には「賛助団体会員」「賛助個人会員」という会員種別があり、このうち「賛助団体会員」として全国の出版社、書店、日本語学校、企業、NPO 団体等、53 団体が入会しています。(2020 年 9 月現在)

賛助団体会員の皆様からは、日本語教育全体の発展と本会の運営の促進のために多大なご協力をいただいています。

「賛助団体会員出展ブース」では、各団体の紹介や、最新情報の発信、書籍・教材の紹介等を行います。当日の双方向型オンラインセッションのほか、オンデマンドによるビデオ配信も行っておりますので、ぜひご覧ください。

- * 無料でのご参加が可能な同時開催イベントへの事前参加登録をお願いいたします（詳細は後日学会ウェブサイトで公開予定）。
- * 出展の詳細は、20 ページをご覧ください。

交流ひろば

〔11月28日(土) 15:00 ~ 16:20〕

主催：公益社団法人日本語教育学会 支部活動委員会

2017 年度に新たに事業を始めた支部活動委員会では、「人をつなぎ、社会を作る」という理念体系に掲げられた使命と「日本語教育の情報交流を促進する」という事業方針を実現するために、秋季大会でも「交流ひろば」を開催します。

「交流ひろば」では、出展者の教育実践や研究の紹介・共有、そして参加者との情報・意見交換が行われます。審査を経た発表ではありませんが、出展を通して同じ興味や問題意識を持つ者同士がネットワークを拡げることが目的とした企画です。

本大会では、日本語学習支援ツールや教材作成ツールの開発、様々な教材やコーパスなどの開発、文法・語彙・表現の指導法についての研究、日本語教師のキャリア支援などといった多様な取り組みが紹介されます。実践的取り組みの共有を通して、活発な交流が生まれることを期待しています。ぜひ、事前配信ビデオや資料をご覧ください。意見・情報交換に参加してみてください。

- * 実施方法は、学会発表と同様です（2 ページ参照）。
- * 出展の詳細は、21 ~ 23 ページをご覧ください。

ぶらさ da わかば

〔11月29日（日）12:30～13:30〕

主催：公益社団法人日本語教育学会 チャレンジ支援委員会

この学会に集うだれもが最初は「わかば」マークをつけて日本語教育の実践や研究に関わり始めました。日本語教育の世界で自分の先を歩いている「センパイ」と交流する機会を持つことができれば、ちょっとしたヒントをもらったり、悩みや疑問について相談したりできるかもしれません。とは言え、自分からセンパイに話しかけることは、なかなかむずかしいことではないでしょうか。そんな「わかば」な人のための企画が「ぶらさ da わかば」です。少人数（1～3人）で1人のセンパイを囲み、気楽に話すチャンスです。研究や実践の話をしたり、キャリアの相談をしたり、センパイの経験談を聞いたり、普段なかなか出会う機会のないセンパイと自由に対話をしてみませんか。今大会の「ぶらさ da わかば」は、ZOOMのブレイクアウト機能を使用し、オンラインで実施します。大会参加申し込みが済んでいる方が対象となります。定員は20名程度、先着順です。申し込み先URLは別途お知らせしますので、参加するセンパイのプロフィールなどの詳細とともに学会ウェブサイトをご覧ください。

日本語教育研究・実践ネットワーク(Net-J) 研究会紹介ブース

* 無料でご参加いただけます。

〔11月29日（日）12:30～13:30〕

主催：公益社団法人日本語教育学会 学会連携委員会 Net-J 部会

日本語教育研究・実践ネットワーク（Net-J）は、アカデミック・ジャパニーズ・グループ研究会、多文化共生社会における日本語教育研究会、日本語音声コミュニケーション学会、JSL 漢字学習研究会、ビジネス日本語研究会、看護と介護の日本語教育研究会、日本語教育学会（事務局）の7団体で組織されたネットワークです。本ブースでは、これらの研究会が、各分野の最新情報や、各研究会の取り組みについてご紹介します。また、当該分野の研究・実践に興味のある方の、個別の相談に乗ることも可能です。ぜひ、関連分野の研究・実践に取り組んでいる方、また関連分野の興味のある方のご来場をお待ちしています。Zoomで直接ご質問やご相談をお受けいたします。加盟団体の詳しい情報については各団体のサイトや動画をご覧ください。（JSL 漢字学習研究会、看護と介護の日本語教育研究会は今回は都合によりZoomは不参加です）。

また、Net-J では、新たな加盟団体を随時募集しています。興味のある団体は、日本語教育学会事務局までご相談ください。

* 無料での参加が可能な同時開催イベントへの事前参加登録をお願いいたします（詳細は後日学会ウェブサイトで公開予定）。

JICA 海外協力隊： 日本語教育人材としての帰国後のキャリア

〔11 月 29 日（日）12:35 ～ 12:50〕

主催：独立行政法人国際協力機構 青年海外協力隊事務局

JICA 海外協力隊の日本語教育隊員は、開発途上国における日本語教育の経験から何を学び、帰国後、日本語教育人材としてどのようなキャリアを歩んでいるのでしょうか。

帰国後進路調査の結果や事例の紹介を通じ、日本語教育人材としての特徴や多文化共生社会の担い手としての可能性について、参加者とともに考えます。

1. JICA 海外協力隊日本語教育隊員 帰国後進路調査結果報告
(独立行政法人国際協力機構青年海外協力隊事務局 課題業務・選考課 星井直子)
2. 事例紹介
 - (1) 「活動を通じて得た問題意識から、日本語教育研究のテーマを見つける」
(松本匡史 埼玉大学大学院博士後期課程大学院生 2015 ～ 2017 年コスタリカ派遣)
 - (2) 「学習者の母語や文化への理解を深め、地域における日本語教育の実践に活かす」
(藤川純子 四日市市立笹川小学校教諭・三重大学教職大学院生 2000 ～ 2002 年ブラジル派遣)

* 実施方法は、学会発表と同様です（2 ページ参照）。

国際交流基金事業紹介： 「生活日本語 Can-do」及び『いそどろ生活の日本語』について

〔11 月 29 日（日）12:55 ～ 13:10〕

主催：独立行政法人国際交流基金

国際交流基金は、政府の外国人材の受入・共生に向けた政策の一環として、新たな取組を実施しています。具体的には、主としてアジア諸国を対象とした①日本語能力判定テスト JFT-Basic の実施、②生活日本語のための Can-do・教材等の開発・普及、③海外日本語教師の育成、及び④海外日本語教育活動強化支援、が挙げられます。

その全体概要と①の JFT-Basic についてご紹介した 2019 年度秋季大会に続き、今回は②の Can-do と教材についてお話しします。日本語を母語としない外国人が日本での生活や仕事の場面で必要となる基礎的な日本語のコミュニケーション力を Can-do の形で記述した「JF 生活日本語 Can-do」（2019 年 8 月公開）について、また、「同 Can-do」を学習目標に設定して制作した新教材『いそどろ生活の日本語』（2020 年 3 月公開。11 月末「入門」公開予定）について、ご説明します。

* 実施方法は、学会発表と同様です（2 ページ参照）。

研究倫理セミナー：研究とその指導に必須の注意事項

〔11 月 29 日（日）13:15 ～ 13:30〕

主催：公益社団法人日本語教育学会 調査研究推進委員会

昨今の研究倫理に関する問題意識を共有し、日本語教育学の一層の進展に資するため、調査研究の際に留意すべき研究倫理や学生指導の際の留意点について会員の意識化を促すことを目的とした企画です。オンデマンドによる本セミナーは研究編と指導編の2つの動画で構成されています。

まず、研究編では調査研究のためのデータ収集、学会発表、論文作成・投稿などにおける研究倫理について情報提供します。次に、指導編では学部・大学院生の指導者の立場にある教員が指導の際に留意すべき点、ハラスメントが起こる危険性などについて問題提起します。

当日は、これらの情報提供をもとに研究倫理、および、学生指導の際の留意点について、参加者全体で意見交換を行います。具体的な事例を紹介しながら議論する予定ですので、論文や研究発表を考える学生さん、日本語現職教員の皆さんのほか、学部・大学院生の指導者の方々などの積極的なご参加をお待ちしています。

*実施方法は、学会発表と同様です（2 ページ参照）。当日の意見交換にご参加希望の方は、指定フォームより11 月 26 日（木）昼 12:00（日本時間）までにぜひアンケートにお答えください。（アンケートにご記入いただかなくともご参加は可能です。）

地域の外国人に寄り添う「やさしい」日本語学習支援

第1部〔13:00～13:30（30分）〕

第1会場

- ①ブラジルにルーツを持つ子供たちへの母語・日本語学習支援
【神戸大学／齊藤美穂氏】

第2会場

- ②兵庫県国際交流協会（HIA）作成『できる？できた!! 暮らしのにほんご』をプラットフォームにした教室活動の紹介
【公益財団法人兵庫県国際交流協会／遠藤知佐氏】

第3会場

- ③堺市通級・巡回日本語指導センター校の取り組み
【堺市通級日本語指導センター 三原台中学校／浦久仁子氏】

第2部〔13:40～14:10（30分）〕

第1会場

- ④多種多様な学習者が気軽に集う予約不要の日本語教室 kokoka
【公益財団法人京都市国際交流協会】

第2会場

- ⑤『生活の漢字』学習支援者養成出前講座
【『生活の漢字』をかんがえる会／新矢麻紀子氏、掛橋智佳子氏、新庄あいみ氏】

第3会場

- ⑥奈良県における外国にルーツをもつ子どもの支援者のネットワークづくり
【奈良・子どもの日本語教育ネットワーク／新谷遥氏】

※無料での参加が可能な同時開催イベントへの事前参加登録をお願いいたします。
（詳細は後日学会ウェブサイトで公開予定）

第1部 [14:20 ~ 14:50]

第1会場	第2会場	第3会場
株式会社 ひつじ書房	株式会社 三修社	公益社団法人 国際日本語普及協会

第2部 [15:00 ~ 15:30]

第1会場	第2会場	第3会場
株式会社 くろしお出版	株式会社 凡人社	一般財団法人 日本国際協力センター

第3部 [15:40 ~ 16:10]

第1会場	第2会場	第3会場
株式会社 研究社	国書刊行会／ 国書日本語学校	コミュニカ学院

第4部 [16:20 ~ 16:50]

第1会場	第2会場	第3会場
公益財団法人 日本漢字能力検定協会	株式会社 ジャパントイズ出版局	株式会社 ワールドینگ

動画配信のみ

キャプラン株式会社 Jプレゼンスアカデ ミー事業グループ 日本語教育研修	株式会社 スリーエーネットワーク	学校法人 長沼スクール 東京日本語学校	有限会社 Jリサーチ出版
---	---------------------	---------------------------	-----------------

※無料での参加が可能な同時開催イベントへの事前参加登録をお願いいたします（詳細は後日学会ウェブサイトで公開予定）。

第1部【15:00～15:20】

＜第1会場＞

①日本語教員が担う管理運営業務のロードマップ作成の試み

中川健司（横浜国立大学），
平山允子（日本学生支援機構東京日本語教育センター），
浦由実（アン・ランゲージ・スクール成増校）

日本語教員は、所属機関で授業以外にも学生対応や時間割作成等の様々な管理運営業務を担っています。私たちは、先行研究の調査結果を基に日本語学校の教員がどの段階でどのような管理運営業務に関わり始めるべきかというロードマップを試作しました。本出展では、これを基に日本語教員がキャリア形成の上でどう管理運営業務に関わるべきかについて議論したいと考えています。

＜第2会場＞

②日本語語彙学習ツール Vocabulary Battlers®

呂建輝（環太平洋大学）

どれほど勉強に役立つ学習ツールでも、学習者がそれを能動的に使おうとしないと意味がない。「教育的効果」だけでなく「勉強の楽しさ」を理解させることも大事だと考え、教材開発の活動に取り組んでいます。学習者を夢中にさせる学習ツールの開発、興味のある方はぜひお越しください。

＜第3会場＞

③アспектについての二つの話題

ー「た」と「ていた」の文法、「ている」を用いたコミュニケーションー

江田すみれ（聖心女子大学），
黒沢晶子（元山形大学），
辻和子（ヒューマンアカデミー日本語学校東京校），
堀恵子（東洋大学）

私たちはアспектに興味があり、教え方を研究しているグループです。アспектの談話中の意味や、どのように使えば誤用と判断されないかなどについて、いろいろな現場で同じような問題意識を持っている方と一緒に考え、日々の教育に生かしたいと考えています。興味のある方はぜひお越しください。

＜第4会場＞

④多読学習材としての読み物作成と公開の方法

ーウェブ無料公開の読み物拡充を目指してー

吉川達（佐賀大学），
門倉正美（横浜国立大学名誉教授），
佐々木良造（静岡大学）

私たちは日本語学習者の多読のための読み物を作成し、ウェブ上で公開しています。コロナ禍では、ウェブ上で自由に読める読み物の重要性は増していますが、その数は十分ではありません。本展示では、私たちが進めている読み物拡充のための取り組みを紹介して趣旨に賛同してくださる書き手を募るとともに、多読について情報共有・意見交換をしたいと思います。

第2部【15:30～15:50】

＜第1会場＞

⑤日本における非母語話者日本語教師のキャリア支援を考える

ー日本語学校で働く新人教師Aさんの語りからー

秋田美帆（関西学院大学），
徳田淳子（東京中央日本語学院），
布施悠子（国立国語研究所）

私たちは非母語話者日本語教師のキャリア形成について研究を始めたグループです。新人教師Aさんへのインタビュー結果をもとに、日本で日本語教師として働くことを希望している非母語話者のキャリア支援のために必要なことは何か、会場みなさんと共に考えたいと思っています。興味のある方はぜひお越しください。

＜第2会場＞

⑥オンライン授業で活用可能な語彙教材作成ツール

角南北斗（フリーランス），
齊藤真美（国際交流基金シドニー日本文化センター），
中川健司（横浜国立大学）

Excelで作った語彙データを、語彙リストPDFやフラッシュカードにそのまま出力できる、オンライン語彙教材作成ツールを開発しました。特にフラッシュカード機能では、読みや訳語を隠したりランダムに並び替えたりすることができ、オンライン授業でも画面共有して活用することが可能です。

＜第3会場＞

⑦話し言葉コーパスを用いた程度副詞「かなり」と「相当」の比較

牛尾佳子（今治明德短期大学）

程度副詞「かなり」と「相当」の比較研究をしています。今回は話し言葉コーパスを用いて研究を行いました。調査の内容や研究の現状について紹介し、皆様と意見交換ができればと思います。興味のある方はお越しください。

＜第4会場＞

⑧留学生の論文読解支援のための読解過程の可視化

ー「視覚的メモ」を用いてー

三好あかね（公益財団法人ひろしま国際センター），
犬飼康弘（同）

私たちは日本語で研究活動を行う留学生の論文読解支援を目的として、学習者の読解過程を可視化する教材を開発し、試用しました。実際の教材や授業での使用例を紹介しながら、論文読解の課題を学習者と共有し、より効果的な読解支援につなげていくためには、どのような改善策が考えられるか等について、みなさんと意見交換をしたいと思っています。

第3部【16:00～16:20】

＜第1会場＞

⑨日本の地域に見られる注意喚起の文型に関する研究

—作成した資料とGoogleフォームを使ったクイズの紹介—

津坂朋宏（東京福祉大学）

留学生にとって日本国内で見られる注意喚起の言葉が易しいものなのか疑問に思い、文型を中心に注意喚起に使われている言葉を調査しました。撮り集めた注意喚起の写真と情報は、ExcelとGoogleドライブを用いてどなたでも使えるようにしています。またGoogleフォームで「注意喚起クイズ」も作りましたので、一度見ていただけると嬉しいです。

＜第2会場＞

⑩初級日本語学習アプリの開発と拡充

黒田史彦（東京都立大学）

スマートフォンなどのモバイル端末で利用できる初級日本語学習アプリ“mic-J app!”を開発しました。完成したコンテンツの概要を紹介し、コメントやご意見をいただきたいと願っています。また、将来における機能や運用方法の拡充に関するアイデアも募集したいと考えています。

＜第3会場＞

⑪中国人大学生向けの日本語会話教材作成

—南京郵電大学の日本語会話教材『学覇日語口語編』の事例—

小椋学（中国・南京郵電大学）

日常会話を習得させるため、中国人大学生の大学生活を忠実に再現した会話教材を作成して授業を行いました。会話教材の作成に関心のある方と一緒によりよい教材を考えていきたいと思っています。よろしくお願い致します。

＜第4会場＞

⑫アカデミックスピーキング

—意見陳述・経験談 発話コーパスの紹介—

伊東克洋（東京外国語大学）、

半沢千絵美（横浜国立大学）

本コーパスは大学や大学院に在籍する日本語母語話者と、中上級日本語学習者（英語、韓国語、中国語）の発話データ（意見陳述、経験談）を横断的に収集したものです。学習者の背景情報や日本語能力の情報も含まれています。ひろばでは今年度公開された完成版をご紹介します。みなさんにご意見をうかがいたいと思っています。興味のある方はぜひお越しください。